

当会会員の(株)池田熱処理工業（札幌市）が、
平成29年10月18日(水)の、日刊工業新聞に紹介されました。

航空機関連に進出

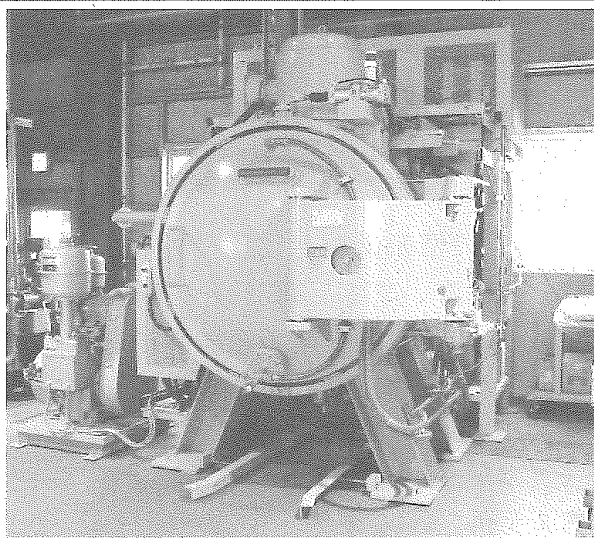
池田熱処理、設備拡充

真空熱処理炉 部品加工一貫体制

【札幌】池田熱処理工業（札幌市東区、池田隆久社長、011・781・5555）は、航空機関連事業に乗り出す。真空熱処理炉などの機械設備を増強する。新たな事業開拓を狙うとともに、これまでの自動車関連事業などの需要が好調なことにも対応する。設備投資額は約5億円。2017年3月期の売上高6億5000万円から、21年3月期をめぐりに、同10億円まで引き上げる考えだ。

池田熱処理工業は熱処理と機械加工を手がけており、一貫生産で航空機部品の加工に向けて、AMS（航空宇宙材料規格）に対応し

た真空熱処理炉を導入した。熱処理の技術力を生かすとともに、同炉は温度管理の精度が高いなど、航空機部品の加工などに関するトレーサビリティ（履歴管理）の要望にも対応できるとみている。主力の自動車用クラッチ板の熱処理についても強化する。24時間



導入した真空熱処理炉

自動運転を可能とするガス軟窒化炉などの設備も導入した。同炉は11月中旬には稼働する予定だ。熱処理関連の強化を図る考えだ。

設備を増やすことで、より薄い加工など精度が求められる製品に対し、新たな需要増にも対応できる体制にしていく。

油圧シリンダーなどの機械加工関連でも設備を増強した。精密ホーニング盤などの研磨設備も増設したほか、3次元測定機も整備した。新たな拠点として東京営業所（東京都台東区）も開設しており、首都圏での販路開拓などの足がかりを見据える。

池田社長は「熱処理などの加工とともに、検査もできる」と話

す。航空機関連への進出を踏まえ、さまざまな加工の一貫した体制の強化を図る考えだ。